



『汽車』

文部省唱歌
作曲 大和田愛羅

今は山中 今は浜
今は鉄橋渡るぞと
思う間もなく トンネルの
闇を通して広野原

遠くに見える 村の屋根
近くに見える 町の軒
森や林や 田や島
後(あと)は後へと飛んでいく

廻り燈籠の絵のように
変わる景色のおもしろさ
見とれてそれと知らぬ間に
早くも過ぎる幾十里

懐かしい歌ですが、自分にとっては、この曲の替え歌で、古文の助動詞接続を暗記したことも懐かしいです。「未然、る・らる・す・さす・しむ、む・ず・むず・じ・まし・まほし、連用、き・けり…」共感する人は少ないかな。



「どこでもドア」の功罪

校長 蒲谷 猛

ドラえものの「ひみつ道具」には、夢あふれる創造豊かな一品がラインナップされています。ネットなどでもよくランキング調査がされていますが、そのなかで常に1位の座を譲らないものが『どこでもドア』です。行きたいところを思い浮かべてドアを開けると、瞬時にその願った場所に行けるとは、まさに夢あふれるツールです。もし、『どこでもドア』を持っていたら、自分の生涯の夢である世界各地への旅は、すぐに実現できます。

誰もが憧れる『どこでもドア』ですが、この夢のツールが実現する「行きたいときに行きたいところにすぐに行ける」という機能は、教育的見地からは考えさせられる点があるなど、いつもの偏屈な私見が膨らんできました。

ポストコロナで、教育現場の研修もオンラインではなく集合研修として実施されるものが再開しています。すると、研修場所に間に合うように到着するというタスクも復活しました。『どこでもドア』はありませんから、〇時〇分の研修開始時には会場に着いているところから逆算して、三ツ境駅〇時〇分発の電車に乗らないといけないので、〇時〇分の「原店」発のバスに間に合うように学校を出る、と計画します。所用で出遅れてしまったからといって、それに応じて予定のバスに待っていてもらうわけにはいきません。既存の枠組みに自分が合わせていくことで、願う移動が実現するわけです。これ、当たり前のことですよ。

一方、昨今の社会情勢を見てみると、「周囲が自分に合わせる文化」「待たない文化」が広がってきているように思います。例えば、デリバリーサービスは、届くまでの待ち時間こそありますが、食べたい店の開店時間に合わせて出かけて、入店の列に並ぶという枠組みに自分が合わせる事がなくなります。自分の食べたい場所ではほぼ食べたいときに食べることが実現します。テレビ番組の見逃し配信など、オンデマンドサービスはどうでしょう。これもまた、放映時間を気にすること無く、自分が見たいときに番組を手に入れることができます。これらは、社会の枠組みの方が個に応じることで利便性を提供しているわけです。

子どものよりよい成長を考えるときには、「周囲が自分に合わせる」「待たない」を当たり前にははいけませんよね。適度な「困難」を伴って、周囲の枠組みに自分が合わせながらそれを活用し、自分の願いを実現していく、そのなかで子どもは成長していきます。子どもの自己中心性を助長する芽は注意深く摘み取らなければいけないと思います。子どもに楽をさせないって大事ですよ。そう考えると、『どこでもドア』なんていららないな。

【7月のカウンセリング】

7月のスクールカウンセラーの来校予定は次の通りです。

7月	3日(月) 6日(木)
	13日(木) 20日(木)
	※4日間全日です。

お子さんの成長や学校生活についての悩みや疑問がありましたら、気軽にご相談ください。学校(045-362-2020)の副校長又は児童支援専任(坂本)までご連絡ください。

【歯みがきチェック 7月6日(木)】

横浜市学校保健会の歯科衛生士が2名来校し、「歯みがきチェック」をします。歯みがきで歯垢がとれているかどうかを検査し、結果をカードでお知らせします。6月28日(水)に配付した歯みがきカード・染色用の綿棒を活用しながら、歯みがき習慣が身につくようにしていけたらと考えています。ご家庭でもお子様に染色用綿棒を使っていただき、歯磨きチェックをしていただきますようお願いいたします。歯垢がほとんどないA判定が取れるよう、ご協力をお願いします。

【原小オリンピックボランティア

ありがとうございました】

5月24日(水)原小オリンピック1日目、26日(金)の原小オリンピック前日準備、また27日(土)の原小オリンピック2日目のサポーターに、多くの方のご協力をいただきました。本当にありがとうございました。事前の準備や当日の徒競走やなかよし種目でのお手伝い、入退場の管理、広報の活動等にご尽力いただき、子どもたちは安心して、全力で演技や競技に臨むことができました。今後ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

【救命救急法研修】

6月9日(金)、前PTA会長の吉谷さんと瀬谷消防署阿久和消防出張所長を講師としてお招きし、救命救急法の講習をしていただきました。



万が一、水中で事故が起きたときの対応の仕方やAEDの使い方、心肺蘇生の方法などを教えていただきました。万が一に備え、学ばせていただくとともに、改めて安全に気をつけて指導していくことの大切さを感じました。

【健康手帳】

定期健康診断が終わりましたので、子どもたちの身体の健康状態を確認していただきたいと思えます。確認が終わりましたら、所定の場所に押印していただき、7月12日(水)までに学校に提出してください。

～押印箇所～

- ① 1～3年生P4 4～6年生P5
- ② 1～3年生P7 4～6年生P8・9
- ③ 歯科検診のページ
- ④ 歯みがきチェックの結果欄
- ⑤ 新体力テストの結果欄

【大掃除 7月14日(金)】

スポンジやたわしにつきましてはお手数ですが、持ち帰り用のビニル袋をご用意いただき、ご家庭で処分してください。

床のこびりついた汚れに対し、クレンザーを使用することがあります。必要に応じ、防水手袋をご用意ください。

【持ち物】

スポンジやたわし、手が荒れやすい児童は防水手袋、スポンジやたわしを入れるビニル袋、必要な児童はマスク

【給食白衣】

学校の貸し出し用白衣を使用している家庭は、7月14日(金)に持ち帰り、修繕をお願いします。7月18日(火)に忘れずにお子様を持たせてください。詳しくは、白衣と一緒に持ち帰るお知らせをご覧ください。個人持ちの人は、各家庭でのチェックをお願いいたします。

18・19日の当番は個人持ちの白衣かエプロンを着用して配膳をします。忘れずに持たせてください。

【道具の持ち帰り】

夏休み前に道具箱等を持ち帰ります。中身をご確認いただき、修理や補充をお願いします。持ち帰るもの(防災頭巾、ヘルメットカバー、絵の具セット、習字セット、体育着、上履きなど)の点検や修繕も併せてよろしくお願いいたします。特に高学年はヘルメットカバーの修繕が必要なお子様が多く見られます。ご協力をお願いします。

【夏休みの宿題および夏休み明けの時間割】

夏休みの宿題や夏休み明け初日8月28日(月)の時間割については、別紙にてお知らせします。各学年から出されるお便りを参照いただき、登校の準備をお願いします。

7月の各学年の取組

【1年生】

図工「すなやつちとなかよし」の学習をしました。「こんな形ができたよ。」

「大きな山ができた。」「水を通す道を作ったよ。」と体全体を使って、友達と楽しみながら取り組む姿が見られました。



【2年生】



一人ひとり大切に世話をしているやごがトンボになりました。生活科で育てている野菜も大きくなって収穫し始めています。

【3年生】

総合の学習では、カイコを育て始めました。カイコを育てるための疑問をクラスで出し合い、資料で調べました。カイコは一日中クワの葉を食べ続けることにとても驚き、毎日休み時間を使ってクワの葉を取りに出かけています。自分のカイコに名前をつけたり、一生懸命掃除したりして、愛着をもって育てています。



【4年生】

4年生の子どもたちは、日々の学習を頑張っています。漢字10問テストの練習や、わり算の筆算、角度の大きさの問題に繰り返し取り組み、自分の力にしようと努力しています。図工では「コロコロガーレ」を学習し、ビー玉が転がるコースを工夫しながら作っていました。

他にも、学年目標をもとに各クラスで学級目標を決めるなど、前向きに生活しようとする姿がたくさんです。

【5年生】

家庭科の学習で調理実習がありました。今回は「カラフルゆで野菜サラダを作る」調理実習をしました。前回の「青菜のおひたしを作る」調理実習に比べ、手際よく調理する姿が見られました。



この調理実習を通して、野菜によって洗い方や、ゆでる時間が違うことを実感していました。

音楽では、「茶色の小びん」の合奏に取り組んでいます。それぞれの役割を意識して、音と心を合わせながら奏でることを通して、改めて協力するよさを感じていました。

【6年生】

国際平和スピーチコンテストに向けて、国語の学習を通して意見文の書き方について学習しました。SDGsについて調べ、SDGsの17の目標と関連付け、「国際平和のために今の自分にできること」をテーマとして、一人ひとりが真剣に自分にできることについて考えました。原稿を書いて練習を重ね、各クラスでスピーチ大会を開き、そこからクラス代表を決めて、6年生のスピーチコンテストを行いました。今年度は、6年4組の小林麗空さんが原小学校の代表として、瀬谷区国際平和スピーチコンテストに出場します。



【7組】

今年度も阿久和地域ケアプラザさんとの活動がスタートいたしました。音楽に合わせて、手拍子をしたり、ステップを踏んだりして楽しみながら学習をしました。今後、低学年を中心に活動を進め、地域とともに育って



いきたいと思えます。

